

亀田総合病院報

Kameda

2020

11



コロナ禍でも輝く人たち

亀田総合病院 院長 亀田 俊明

度重なる自然災害や疫病で、日本だけでなく世界全体が沈んだ雰囲気になっている中においても、勢いや輝きを失うどころか、どんどん新しいことにチャレンジしながら自分の世界を広げて活躍する人達がいます。その一人一人を見ると、見るからに行動的で勢いがありそうな人だけでなく、おとなしく控えめそうに見える人もいて多種多様です。こんな時期だからこそ見えてくる、人の意外な一面もあるなと実感しています。

この夏、今年も90人を超える応募者を対象に研修医の採用面接を行いました。面接で趣味をたずねると、「料理です」「動画配信です」「作曲です」などと返答があり、いつから始めたのか質問すると、「実は自粛中に何か新たに趣味を作ろうと思いチャレンジしてみたところですよ」といったような返答が相当数ありました。それとは逆に「自粛下で今は趣味ができていません」と寂しそうに答えた方もいました。もちろん後者の方も現在を楽しめているわけではないと思いますが、どんな状況下でも楽しみや興味を探したりするのが上手な人は羨ましいと個人的には思います。

仕事においても同様で、3密を避けるために集団での会議や会食はことごとくなくなり、懇親会やワークショップなどもなくなったことで、仕事やコミュニケーションを従来通り行うことができなくなりました。しかし、これを機に大きく働き方を変えた部署、コロナ禍が収まった時に攻められるような構想を楽しそうに描いている部署、会議などが減った今だからこそこれまで手付けられなかった執筆や論文を沢山書くことを推奨する部署、極めつけは現在の状態を利用して新たなビジネススキーム

を構築する部署なども出てきました。正直、今年はコロナを言い訳にすれば色々許される雰囲気がありますが、伸びていくところは外的要因に左右されてもひるむどころか、自分の仕事に対して飽くなき情熱と自信を持っているということがよくわかりました。

ここで一人ぜひ紹介したい人物がいます。

亀田総合病院副院長の植田健一先生です。植田先生との出会いは5年前、私が米国アイオワ大学へ短期留学中のことでした。アイオワはアメリカ中西部に位置するのどかな土地で、キャンパスはもちろん町で日本人を見かけることは稀でした。ある時日本人医師が話しかけてくれ、まるで自分の家に来いと言わんばかりの誘い方で植田先生宅のBBQに呼んでいただいたのが始まりでした。当時、植田先生はすでに小児心臓麻酔領域で著名であるにも関わらず、全く壁を感じさせない人間的にもとても魅力的な方でした。「宝くじで一生遊んで暮らせるお金が手に入っても死ぬまで麻酔を追求したい」と言っておられたのを覚えています。2018年に当院麻酔科部長として着任されてからも、常に手術センターや病院の発展の構想を練り、実際に周麻酔期看護師の育成などさまざまな活動に精力的に取り組まれています。

この奇跡のようなアイオワでの出会いを思い出すたび、いつどこに素晴らしい出会いが待っているのかわからないと思います。現在のような状況下でも、人だけでなく経験や仕事など皆様の周りにもたくさんの素敵な出会いがきっとあるはずです。しっかり前を向いて、チャンスを逃さずにいきましょう！



注：撮影のためにマスクを外しています

長寿化に伴い、生涯のうち二人にひとりは何らかのがんを患うと言われています。また診断や治療法が進歩したことで、がんになっても、その後の人生を「がんサバイバー※」としてどのように生きてゆくかがより大切になってきました。

がん治療(手術・放射線治療・化学療法など)後に、一定の割合で起きる上肢や下肢のリンパ浮腫患者数は、日本国内で約25万人といわれており、がん治療の進歩により、今後も増加すると考えられています。これまではがんからの生存が問題でしたが、これからの長寿社会ではその後のQOL(Quality of Life: 生活の質)の維持が同じくらい重要になってくることでしょう。



そこで今回は、乳がんや卵巣がん、子宮がんなど、主に女性がんの治療後に発症するリンパ浮腫の治療に取り組む「リンパ浮腫センター」にお話をうかがいました。

※がんサバイバー: サバイバーとは「生存者」という意味ですが、がんサバイバーとは、すべてのがん体験者のことを指します。また、サバイバーが生活していくうえで直面する問題を乗り越えて生きていくことを「がんサバイバーシップ」といいます。

今回リンパ浮腫センターのセンター長である林明辰医師(以下、林医師)のもとを訪ねようと思っ



たきっかけは、世界的に権威のあるLE & RN(Lymphatic Education & Research Network)というニューヨークに本部のあるNPO機関からCOE(Center of Excellence)の認証を付与されたと聞いたからです。COEとは、優秀な人材と最先端の設備環境を集約した医療拠点のことを指します。

LE & RNは、教育、研究、発信を通じてリンパ疾患やリンパ浮腫と闘う患者をサポートするために、1998年に設立された国際的に認められた非営利団体で、世界中に支部を置き、疾患の予防や治療を促進することを目的とした世界有数の大きな団体だそうです。



(<https://lymphaticnetwork.org/>)

その団体が、2019年より世界中のリンパ浮腫治療施設に対し、COEの審査をすることを発表しました。評価基準は非常に厳しく、また認証されても有効期間は3年間。その後は更新が必須です。ひと口にCOEと言っても、いくつかのカテゴリーに分かれています。まずComprehensive CenterとNetworkの認証が発表

されました。ハーバード大学やスタンフォード大学の附属病院など世界的に有名な医療機関名が並んでいます。(<https://lymphaticnetwork.org/centers-of-excellence>)

今回、当院リンパ浮腫センターが認証審査を申し込んだのは「Surgery(手術)のCOE」。約10ヶ月間の審査を経て、このたびアジア・日本初となる認証を無事受けることが出来ました。

そもそもリンパ浮腫って？

がんの治療では主に手術、放射線治療、化学療法などが行われます。しかしそれらの治療により、腕やあしのむくみがある一定の割合で起きることが分かっています。このむくみを「リンパ浮腫」といいます。

わきの下(腋窩)や骨盤腔内の広範なリンパ節郭清術*を行ったがん患者さまの術後に起こるリンパ浮腫は、これまでは腕やあしが目に見えてむくんで太くなり、生活に支障が出てから治療を始めるということがほとんどでした。

リンパ浮腫は、リンパ液が流れる管の障害であり、近年では、さまざまな診断技術の進歩により、症状がひどくなる前から発症をとらえることが可能になってきたと、林医師。

※リンパ節郭清術:悪性腫瘍の摘出手術の際、腫瘍そのものだけでなく、周囲のリンパ節や転移している可能性のある疑わしい組織を徹底的に取り除くこと。

リンパ浮腫外来からセンターへ

当院では、2008年からリンパ浮腫外来が開設されていましたが、2018年に林医師が着任したことで、診療体制をより一層充実させるため、2020年4月より「リンパ浮腫センター」に生まれ変わりました。

センターの特徴は、亀田総合病院と亀田京橋クリニックを通して、リンパ浮腫の予防から治療、検査、そして保存療法から外科治療まで全てを行える点にあります。そして乳腺科・婦人科・放射線科の医師、高度なトレーニングを受けたリンパセラピスト(看護師、理学療法士など)と共に、チーム医療を提供している点があげられます。

林医師の専門は形成外科ですが、2018年2月の入職時より、リンパ浮腫の症例が多い乳腺科(福岡英祐主任部長)に属し、現在もリンパ浮腫センター長と乳腺科医長を兼務しています。

今回がん診療連携拠点病院で「リンパ浮腫外来」を検索してみたところ、窓口を設けていない(直接受診できない)医療機関が多いことがわかりました。つまりその病院でがん治療を受けた人の継続治療のためにやっているため、他の医療機関でがん治療を終えた方の治療は行わないという施設が多いのです。

こだわり

「リンパ浮腫の患者さまが困っているのは、まさにそこなのです!」と林医

師。自分の所でがんの手術を受けた患者しか診ない病院が多いということは、リンパ浮腫で悩む患者さまはどうしているのでしょうか。

基本的に南房総でリンパ浮腫の治療は当院以外やっていないため、がんの治療を終えた後リンパ浮腫で悩む患者さまの行き場がなくて困っている患者さまが外来を受診されるとのこと。しかしもっと深刻な問題を林医師は、次のように話します。

「リンパ浮腫はこれまで診断もされずに治療されていました。本当にリンパ浮腫なのかどうかも診ておらず、重症度も診ずに、治療のタイミングを決めていました。リンパ浮腫の治療の中心は保存治療です。リンパセラピストによるリンパマッサージやリンパドレナージ、圧迫治療、弾性着衣^{*}を使用しますが、保険が使えず、すべて自費診療となります。特に弾性ストッキングは高価ですが、リンパ節郭清をしていないと補助ができません。

また、治療手段が保存療法しかないと症状の悪化に対して打つ手がなくなるケースが出てきます。そういう場合は早目に適切な外科的治療(リンパ管静脈吻合術、血管柄付リンパ移植、脂肪吸引など)を導入しないとさらに悪化します。こうした治療を取り入れることで、浮腫の改善や増悪の予防ができるようになってきているのですが、それらの情報が行き届いていない患者さまがまだたくさんいます」。

^{*}弾性着衣:リンパ浮腫がひどくなるのを予防するための、特殊な素材でできたストッキング・スリーブ・グローブなどのこと。

やっぱり「早期診断・早期治療」

実際に他の医療機関から当院を受診された患者さまの場合、「保存療法をやっているけれども、こんなに悪くなってしまった」という方がほとんどだそうです。かかりつけの担当者に相談しても「では(弾性着衣の)圧迫を強いものに替えましょう」と言われるだけで、症状が改善しないため思い切って病院をかえてみたというケースが多いとか。

林医師は、「こうなる前の段階で何とか食い止めたい」と言います。それにはまずきちんと診断をつけた上で治療方針を決め、保存療法も外科治療もアフターフォローも全てできる、早期診断・早期治療を実現するための“チーム”がどうしても必要でした。

患者数の推移

乳がんの場合、リンパ節を郭清された方のうち20～25%がリンパ浮腫になります。子宮がんや卵巣がんの場合30～35%といわれています。

実際に数字で考えると、乳がんの新規患者数は年間約9万人、子宮がんや卵巣がんの新規患者数は年間約2万5千人なので、女性がんを患った方のうち約3万人の方が、がんの治療後数年以内にリンパ浮腫を起こすことになります。

特に、婦人科がん術後に起こる下肢のリンパ浮腫には気を付けなければいけません。なぜかという、足は常



に重力に逆らっているので浮腫が起きやすく、重症化しやすく、進行が早いという特徴があるからです。

比率的には乳がん術後の上肢リンパ浮腫が多いはずですが、実際に外来受診されるのは下肢の方が多いというのが世界の医療機関の現状だそうです。

リンパ浮腫の原因として最も多いのはリンパ節郭清ですが、そこに放射線療法や化学療法が追加されると前述の発症率が上がってきます。その理由は、「例えば手術の場合は、リンパ節を郭清した数とリンパ浮腫を発症する確率が関係していると言われていきます。それに対し放射線治療の場合、放射線をあてる部分がリンパ節一帯の近くであると、リンパ節のダメージが大きくなり、リンパ浮腫になる確率が上がります。化学療法は、リンパ管自体に直接ダメージを与えます。特定の化学療法の薬剤が体の中を巡る際にリンパ管を痛めつけるからです」と林医師。

リンパ節郭清によってリンパ浮腫を発症する確率に加え、放射線や化学療法を受けた場合、その確率は約1割増すといった印象だそうです。

スタッフと治療実績

リンパ浮腫の発生要因は、リンパ管の不可逆的な変性であり、上肢や下肢がむくむ以前からリンパ管の変性は始まっています。これまでリンパ浮腫の治療は、むくみが外見的に目立つようになってから治療を開始することがほとんどで、その場合リンパ管の変性はすでに進んでしまっているため、治療の効果は限定的になり治療が難渋することが多くなります。

しかし近年、画像診断技術の進化に伴い、リンパ管の変性を早い段階で捉えることができるようになってきました。また、リンパ浮腫に対する治療は、これまでの中心であったセルフドレナージや圧迫療法などの保存的治療に加え、適切な外科的治療を取り入れることで、浮腫の改善や増悪の予防を行うことができるようになってきたそうです。

リンパ浮腫の外科治療は、0.5 mm未満の超微小血管吻合技術(スーパーマイクロサージャリー)を用いた低侵襲外科治療であるリンパ管細静脈吻合術(Lymphaticovenular

Anastomosis: LVA)が中心に行われますが、重症度が進むと必要に応じて血管柄付きリンパ節移植術(Lymph Node Transfer:LNT)や脂肪吸引を組み合わせる必要があります。これまでに日本や世界で1,500例以上の手術実績を持つ林医師のもとでは、各種リンパ浮腫外科治療を併用して圧迫療法抵抗性のリンパ浮腫(がん治療後の二次性リンパ浮腫ならびに原因不明の原発性リンパ浮腫)に対して積極的に治療を行っています。

当センターでは、乳腺科・婦人科・放射線科/画像診断センター・看護師や理学療法士などの他職種との緊密な連携の下、リンパ浮腫の包括的診断・評価を行い、リンパ浮腫の早期発見・早期治療につとめるとともに、患者さまのニーズに合わせた適切な保存的治療や外科的治療によるオーダーメイド治療を提供し、さらにエビデンスに基づいた新たな画像診断や治療の開発に常に取り組んでいます。

関連施設である亀田京橋クリニックリンパケア外来と定期的に情報共有と相互研修を行い、スキルアップを図っています。

リンパ浮腫センター スタッフ (敬称略)

林 明辰	医師 センター長
千葉 恵子	顧問 亀田医療大学講師 リンパセラピスト
福岡 英祐	医師 乳腺センター長、乳腺科主任部長
町田 洋一	医師 放射線科部長、画像診断センター長
松浦 拓人	医師 産婦人科 部長代理
ケリー 由美子	看護師 リンパセラピスト
沼口 友美	理学療法士 リンパセラピスト
原 浩子	看護師 京橋CLリンパセラピスト
金子 真紀代	理学療法士 京橋CLリンパセラピスト

今回COEに選ばれた理由 その1

Center of Excellenceに求められているのは、リンパ浮腫の手術成績向上のため、手術の前後でどのようなサービスを提供しているかということだと林医師。診断は、あなたの施設でどういったことができますか？ 保存療法との組み合わせはどういうことを？ また手術前や手術中の計画はどういうことをしていますか？ 手術後のフォローはどういうことをしていますか？と詳細に聞かれ、「山のような書類を提出しました。診断や手術後の保存療法に力を入れているのはもちろんのこと、手術前後の評価、手術の効果を最大限に出すためにどういう検査や計画をしているのかという点が評価されたのだと思います」。

リンパ浮腫では適切な診断・評価が欠かせませんが、当センターではリンパ浮腫評価に用いられるすべての画像診断が可能で、「リンパシンチグラフィ」「インドシアニンググリーン蛍光リンパ管造影(ICGリンパ管造影)」



▲上肢リンパ症例



▲下肢リンパ症例

「MRI」「CT」など各種検査を病態に応じて組み合わせてリンパ浮腫を包括的に評価した上で治療を行っています。

普通は1種類のリンパ管造影検査を行い、手術前と手術中にその画像を使います。しかし当センターではさらに異なる新しい2種類の画像診断検査を行うことで、リンパ浮腫の原因になっているリンパ管を同定するのみではなく、そのリンパ管の中で手術の効果を最大限に出せる状態の場所を選択しています。この2つの検査機器を導入しているのは世界でも当センターだけとのことで、林医師が世界に先駆けて英語論文や国際学会で発表してきました。現在では、世界中の施設で同様の方法が取り入れられ始めているそうです。

ひとつは最新の「超高周波超音波」という機器で、手術前の診断や手術直前の計画に使います。ふたつ目は「レーザートモグラフィ(OCT)付き顕微鏡」で、こちらは手術中に使うものです。これらを前述の検査と組み合わせることでより効果的・効率的な手術を実現しており、これがCOEに選ばれた理由ではないかと林医師は分析しています。

今回COEに選ばれた理由 その2

林医師の経歴を見ると、ベルギー(Lymfecentrum, AZ Sint-Maarten Hospital, Department of lymphatic surgery)に手術指導医として招かれています。

ベルギーでは主にスーパーマイクロサージャリーの手術指導を行ったとのこと。通常のマイクロサージャリーは直径1mm以上の血管を取り扱いますが、スーパーマイクロサージャリーの定義は0.8mm以下の血管やリンパ管を縫う技術のことを言います。リンパ管などはほとんどが0.5mm以下なので、縫い方や使用する道具も違うため、特別なトレーニングが必要とあって、前任の病院で手術見学に来られた方から、指導医として乞われ、5か月ほどベルギーで指導を行ったそうです。また、2018年に当院に赴任後、海外から約20名の医師が、林医師のリンパ浮腫治療の取り組みや手術の見学に来られています。



現在国内でスーパーマイクロサージャリーを高いレベルで行える医師の数は、まだごくわずかです。さらに診断から保存療法、外科治療まで包括的に行える施設も少ないのが現状です。

合併症で悩む患者さまのために

がんの生存率が上がれば、合併症で悩む患者さまも増えます。通常リンパセラピストは保存療法しかしませんが、当院の「医療リンパドレナージセラピスト」の中には、医師が造影剤を入

れて赤外線カメラでリンパの流れの様子を撮影したICGリンパ管造影の画像を用い、どこをどのようにマッサージすれば良いか理解し、自分たちの施術に生かしているスタッフが育っているそうです。

これまで保存療法は、リンパの流れや教科書などで習う滞留したリンパ液を流していくという手法だったのですが、実際は検査をすると違うことがたくさんあり、検査画像と併用することで、患者さまにより的確なアドバイスができるということです。林医師から指導を受けている沼口友美さんとケリー由美子さんにお話をうかがいました。

2年前に資格を取得した沼口友美さんは理学療法士でもあります。「がんのリハビリには携わっていました



が、病棟で浮腫に悩む患者さまを見るたびに、女性だからこそもっと生活に寄り添い、専門的にアドバイスしたり、施術出来るようになれば良いな」と思ったそうです。

下肢のリンパ浮腫が原因でスカートををはけなかった患者さまが、念願のスカートををはいて、外へ積極的に出てゆく様子を見ることが出来るのは本当にうれしいそうです。「浮腫と運動は直接関係ないように見えますが、実は運動を避けていると脂肪の沈着を招き、整容的にも良くないのです」と沼口さん。鴨川と京橋の両方でリンパ浮腫

外来を担当してみて、運動に対する意識が都会の患者さまの方がネットやSNSで情報を持っているため高いと感じるそうです。

一方、ケリー由美子さんはナース歴19年のベテラン看護師。現在は亀田医療大学の講師として活躍している千葉恵子さんが、緩和ケアチームのリンパセラピストとして、患者さまの悩みを聞きながら施術する姿を見たことがセラピストの資格をとろうと思うきっかけになったそうです。

つい最近右足のリンパ浮腫の集中排液も含めた治療目的で入院された70歳代の患者さまは、もともと同世代のサークル仲間と野山を散策するのが好きだったとか。しかしだんだん長靴のサイズが合わなくてサークルに参加できなくなり、リンパ浮腫によって趣味や楽しみが減ってしまったことをとても残念そうに話していたそうです。しかし入院加療で足が数センチ細くなったことをとても喜ばれ、またサークルの仲間と山歩きに出かけられるのではないかと非常に気持ちが前向きになり、年内に手術を受けることも決めたそうです。「身体面だけでなく精神的に後向きになっている患者さまが多いので、気持ちに寄り添い、少しでも患者さまが前向きに目標をもって治療に臨むことができるよう、またリンパ浮腫を抱えながらも生活の中で楽しみや生きがいを見つけられるようなお手伝いができ

たらいいと思い、日々鍛錬しています」と言います。

リンパ浮腫は、リンパ液がリンパ管に回収されずに漏れている状態のため、きちんとリンパ管に取り込まれるようにすることが大事になるそうです。肌の表層にある毛細リンパ管から集合リンパ管に集めて、身体の奥の方にあるリンパ管の流れに乗せてあげることが重要になります。これまでセラピストの手の感覚のみで行ってきた施術に、画像という科学の“目”を加えることで、よりの確なケアを導き出すことの重要性を実感し、お二人とも大きな手ごたえを感じているようです。

このように、がん治療後の腕やあしのむくみやしびれ、違和感なども、新しい技術を用いた早期診断・早期治療により、これまで通りの普通の生活を継続することができるようになってきたことが理解できます。林医師は「リンパ浮腫になってから時間が経った方でも、これまでの治療に外科治療を取り入れることで症状の軽減や日常生活のQOL向上が期待できるようになってきました。90歳の方でも可能です」と爽やかに言い切りました。

おわりに

当院の亀田信介シニア・エグゼクティブ・プロデューサーは、「今の医療は、チーム医療なくして成立しない。スタッフ間の役割分担と責任が明確になってさえいれば、合理的に考え、誰がそれを行うのが最もふさわしいか

で判断すべき。ところが現行制度では医師でなければできないことが多く、現場の感覚とズレが生じている。これを解決することが真の“医療における働き方改革”だ」とおっしゃる。

スタッフも、新たな役割を与えられれば、仕事への意欲も湧き、頑張れば資格が取れ、給料もやりがいも上がる——。こうしたキャリアアップの仕組みは非常に素晴らしいと思います。林医師の取り組みは、周囲の理解もあり、まさにこの考えを一步も二歩も進めているように感じました。「法律が…」「そんなことをしたら…」などと考えてばかりで、今できることにチャレンジすることもしないのは単なる言い訳だよといわれているようで、背筋がスッと伸びたような気がしました。

リンパ浮腫センター予約方法

《亀田総合病院、亀田クリニック》

診察日

第1・2・3・5火曜日
第4または第5木曜日

予約電話番号

04-7099-1111
8:00～17:00(日曜・祝日を除く)

《亀田京橋クリニック》

診察日

第1・3・5金曜日
第2土曜日、第3水曜日

初診診察日問合せ専用メールアドレス

hayashi.akitatsu@kameda.jp

問い合わせ電話番号

03-3527-9201
8:30～17:00(日曜・祝日を除く)

「特定行為看護師研修」2期生開講

亀田総合病院は、2019年に特定行為指定研修機関となり、特定行為看護師を育成する特定行為研修を開始しました。今回、2020年10月3日には「特定行為看護師研修」2期生の開講式が行われました。

1期生は亀田総合病院の看護師のみでしたが、2期生からは、亀田総合病院以外の医療機関で勤務している看護師にも門戸を広く開放し、安房地域医療センター3名と他施設3名の受講者も含め、総勢19名が研修を開始しました。受講生は、e-learningを活用した授業や演習、実習を働きながら1年間学びます。

今後、特定行為研修を修了した看護師は、亀田総合病院だけでなく、地域を含めたチーム医療の一員として活躍していきます。



3期生(2021年9月研修開始予定)からは、領域パッケージの導入を予定しています。募集要項は、今後下記亀田総合病院研修サイトに掲載します。

(<http://www.kameda-resident.jp/>)

卒後研修センター副センター長 飯塚裕美

CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

オハイオ州立大学とMOU (国際交流協定) を締結



オハイオ州立大学 (OSU) はアメリカ合衆国のオハイオ州コロンバス市に位置する公立大学で、世界大学ランキングでも常にベスト100に選出される名門校です。この度、臨床病理科の福岡順也部長とBYCHKOV Andrey主任の数年間におよぶコラボレーションの結果、亀田総合病院との間に国際交流協定を結ぶことになりました。8月6日(木)にWebExシステム上で、MOU締結書に亀田隆明理事長がサインするセレモニーが催され、OSUからは、前北米病理学会理事長であるFrankel教授とVise ChairであるParwani教授、国際委員長のWalsh氏らが参加されました。

今後当院では、病理学のみならず、全ての分野においてオフィシャルにOSUとの交流が可能と

なります。交換留学をはじめ、ジョイントセミナーの開催など多くのアカデミックな発展へとつながることなど大きな期待が寄せられています。OSUのような名門校と国際交流協定(MOU)を締結することは簡単なことではなく、まして大学ではない民間病院における名門大学とのMOU締結は極めて異例といえます。OSUが亀田総合病院のポテンシャルを大きく評価してくれた結果と関係者は分析しています。

今回の布石となったのは、病院の病理システムの100%デジタル化をアジアで初めて完成させたという実績と、2018年および2019年にデジタル病理診断の世界的権威であるParwani教授が亀田総合病院を視察に訪れたことであり、その際、Parwani教授から当院におけるデジタル診断と遠隔育成のシステム構築に対して称賛の言葉をいただき、併せて当院における診療と教育体制の高さを極めて高く評価してくださったことにあると福岡部長はコメントしています。

今後、初期および後期研修医のみならず、指導医の方々にも是非この機会を積極的に利用して国際的な交流を深めていただき、今後の病院の発展につなげることが出来ればと関係者は期待を寄せています。

外来予約情報をWEBで確認できます

亀田クリニックでは、パソコンやスマートフォンから簡単にご自身の外来予約情報(診察・検査・リハビリ)を確認できるサービスを開始いたしました。

【利用方法】

まずは、お手元に診察券をご用意いただき、右記初回登録QRコードまたは初回登録用URL (https://www.kameda.clinic/booking_confirmation/signup/) から「登録」を行ってください。(※ご登録いただけるのはご本人のみです)



登録が済んだら、次は確認用QRコードまたは確認用URL (https://www.kameda.clinic/booking_confirmation/) から「外来の予約情報」を確認してみてください。



なお、予約情報は翌日以降反映されます。また、診療上の都合により、情報を非公開とさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 新規予約・変更は「予約センター」へ

☎04-7099-1111

(8:00 ~ 17:00/日曜・祝日除く)

※掲載している写真は撮影のためにマスクを外しています。

亀田京橋クリニック 渡航前PCR検査が好評



世界保健機関(WHO)が3月に新型コロナウイルスのパンデミック(世界的な大流行)を宣言してから半年以上が経過しました。感染が収束に向かった国から出入国制限を段階的に緩和するなど、経済活動が再開されています。

日本政府も、感染の第一波が収束した6月になって、現行の出入国制限措置の例外的な措置として、感染状況が落ち着いている国や地域と個別協議を行い、ビジネス関係者らを対象に入国を認めるなど、第一弾の出入国制限緩和が行われました。さらに10月からは、中長期滞在できる在留資格の取得者や外国人留学生らが国籍を問わず入国できるようになるなど、コロナ禍で落ち込んだ経済を再生するため、世界からの新規入国受け入れを一部再開させています。

そうした国際的な人の往来再開を可能にしているのがPCR検査です。PCR検査は世界的に渡航者の海外入国時の必須検査となりつつあり、入国数日前(国によって日数が異なります)に行ったPCR検査の陰性証明書の提出が求められるようになってきています。

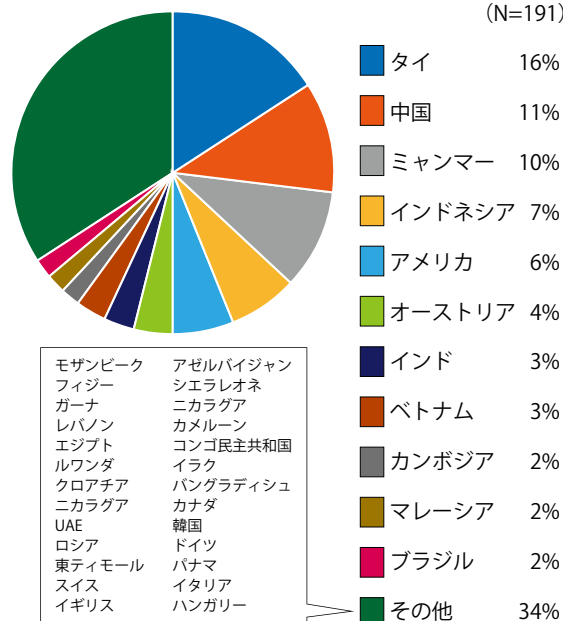
亀田京橋クリニックでは、新型コロナウイルス感染リスクに対する社会的要望に応えるため、6月より「ビジネス渡航前 新型コロナウイルスPCR検査・陰性証明書発行」(完全予約制、自費診療)を開始。朝8時台に検査を行えば、当日中に証明書が発行されること、月～金曜日で検査を実施していること、(いくつかの国の入国要件になっている)米国FDAで承認された検査機器を用いて測定を行っていること、各国指定のフォーマットに対応し、PCR検査の陰性証明書のほかに健康証明書が求め

られる国に対しては、診察の上、健康証明書の発行を行うなど、渡航先の入国条件に合わせてきめ細やかに対応していることが評価され、6月の開始以来、渡航前PCR検査数を伸ばしています。

また渡航先の国も、人の往来をいち早く再開させたタイ、中国、ミャンマー、インドネシアといったアジアの国々を中心に、ヨーロッパやアフリカなど多岐にわたります。

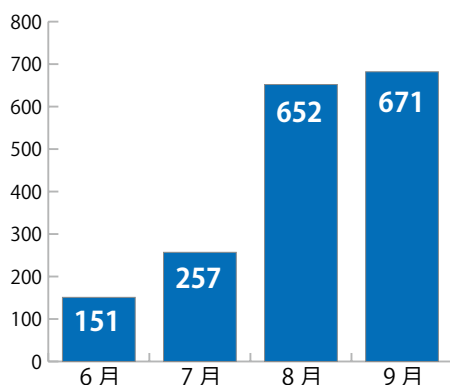
(図2) 渡航前 PCR 検査出国先割合

(N=191)



亀田京橋クリニックに続き、亀田クリニックでも9月より「ビジネス渡航等前 新型コロナウイルスPCR検査・陰性証明書発行」(完全予約制、自費診療)を行っておりますので、ビジネス等で海外渡航をされる方でPCR検査の陰性証明書等が必要な方はどうぞご利用ください。検査の詳細や費用、お申込みはホームページをご確認ください。

(図1) 渡航前 PCR 検査数



※なお、渡航前PCR検査は、症状がなくビジネス等で海外渡航される方を対象としています。何らかの症状があり、新型コロナウイルス感染症が疑われる方は、当検査の対象外です。また、当日の検温で37.5度以上の発熱がある方、もしくは上気道症状がある方は検査を受けることができません(陰性証明書の発行もできません)ので、あらかじめご了承ください。

長狭高校 医療・福祉コース生徒が医療体験実習

8月4日(火)・5日(水)の2日間、千葉県立長狭高等学校(石井一司校長)医療・福祉コースの「医療」分野で学ぶ3年生34名が、当院で医療体験実習を行いました。

亀田グループでは、県立長狭高等学校と2015年に教育連携協定を締結し、地域の医療・福祉人材の教育に向けて、専門職種による出張授業をはじめ、様々な形でカリキュラムのサポートを行っています。

この医療体験実習は、病院職員に付いて日常行っている業務を見学し、希望する職種に対して理解を深めることを目的として、希望職種に影のように密着し「見て体験・学習」するシャドー研修が行われました。

事前に各自の実習先希望を募り、2日間の予定が組まれ、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、リハビリ関係(理学療法士、言語聴覚士)、管理栄養士、歯科関係(歯科衛生士、歯科技工士)、薬剤師の職種に分かれて体験実習を行いました。

中でも希望者が一番多い看護(2日間実習16人、一日目のみ実習2人)では、担当看護師について、バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸、体温)の観察の仕方、患者さまとのコミュニケーション、清拭・足浴・手浴などの体験などを行いました。



参加した生徒の皆さんから、 次のような感想をいただきました。

✓ 今回の実習を通して、看護師の大変さを実感することができた。患者さまの趣味の話をしてリラックスしてもらい、正確なバイタルサインを測定するなど、病気のことで不安な患者さまが安心して入院できるようにサポートしていて看護師は、特別な存在だと感じた

✓ 自分に何かできることはないか、患者さまのためになる看護師に早くなりたいと強く思った

✓ 多くの患者さまがいる中で、事故やミスを無くすために普段の生活から広い視野を持てるよう意識しようと思った

✓ 医療用のユニフォームを着ることができたことに一番感動した。本当に診療放射線技師になったかのような気分になれた。この2日間の実習はとても恵まれていて、将来の選択肢の一つとなり今後に生かしたい

✓ 歯科技工士の仕事の体験をしてみて、一見地味に見えるかもしれないが、義歯製作などをやり終えた時の達成感はかなり大きいのではないかと思った。とても貴重な体験をさせていただき、本当に参加して良かったと思った

✓ 理学療法士の方が患者さまと日常会話をしながらリハビリを行うことで、患者さまも笑顔でリハビリを受けられると感じた。理学療法士に限らず医療従事者には、コミュニケーション能力は必要不可欠であると改めて感じた

✓ 一人ひとりの患者さまの症状に合ったリハビリを提供していることを学んだ。患者さまと目標を持ち、一緒にリハビリに取り組んでいる様子や患者さまから感謝されている様子などを見て、本当にすばらしい仕事だと感じた

11月26日(木)には、体験実習の受け入れを行った部署スタッフ向けに、今回シャドー研修に参加した生徒による「医療体験実習発表会」を行う予定となっています。

「Student Seminar」開催



8月18日(火)午後2時30分から、医療職をめざす高校生を対象とした「Student Seminar 臨床検査体験」(協賛:アボットジャパン株式会社)が開催され、千葉県立安房高等学校(石井浩己学校長)の生徒6名が参加しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で中学生を対象としたセミナーは開催しませんでした。2012年からはじめ今年で9回目を迎えるこの現役高校生向けセミナーは、実際に臨床検査技師という職業体験を通して、医療を支えるさまざまな仕事に目を向けてもらうなど、将来を左右する進路決定に少なからず影響を与えることなどを考慮し、担当部署である臨床検査センターでは、受け入れ方法等に工夫を凝らし、今回は少人数での開催となりました。



全体説明のあと、参加者たちは2人ずつ3班に分かれ、①ダミー人形の腕を使用した採血、②人の身体を使用した心臓超音波検査(心エコー)、③顕微鏡・血液型検査の3つの体験にチャレンジしました。

参加した高校生からは、「看護師をしている母の勧めもあり、自分も医療系の学校に進学したいと思っていたので参加した。楽しかった」「医療系に興味があり、検査技師をめざしている。インストラクターの説明は、とてもわかりやすく、いろいろな体験ができて良かった」「参加してみて、もっと臨床検査技師になりたいと思った」などの感想が聞かれました。

閉講式では、亀田クリニックの亀田省吾院長から一人ずつに修了証が手渡されました。

小学館新書『麻布という不治の病』 亀田隆明理事長 在学中のエピソードを語る

当法人の亀田隆明理事長が取材協力した新書『麻布という不治の病：めんどくさい超進学校』が、10月1日、小学館から発売されました。

同著は、「自由な学校」の代名詞として知られ、東大合格者数ランキングトップ10から一度も外れたことがない東京都港区にある進学校「麻布中学校・高等学校」のおもしろさを、育児・教育ジャーナリストのおおとしまさ氏が各界で異彩を放つ9人の卒業生へのインタビューなどを通じて掘り下げた一冊です。

そのほかには、創業者・江原素六の逸話、70年代初頭の高校紛争で全国的にも稀有な「全面勝利」を体験した当事者である卒業生の回想、現役生との座談会、自らも麻布卒業生である著者が明かす

教師との思い出など、様々な視点から、「いい学校とは何か」「いい教育とは何か」「子どもに大人は何ができるのか」といった普遍的な問いに迫ります。

谷垣禎一氏(元自民党総裁)、前川喜平氏(元文科学務次官)、湯浅卓氏(国際弁護士)、宮台真司氏(社会学者)、伊藤羊一氏(ヤフーアカデミア学長)、千葉功太郎氏(個人投資家)、吉田尚記氏(ニッポン放送アナウンサー)、ときど氏(プロゲーマー)といった個性豊かな卒業生の一人として、当法人の亀田隆明理事長も今だから話せる在学中のエピソードや麻布で得たものについて語っています。全国の書店等で販売中ですので、興味をお持ちの方はぜひご一読ください。(定価 税込968円)





今号は…

肺炎球菌ワクチン

日頃、元気に過ごされている方でも、高齢になると体調の変化などのちょっとしたことがきっかけで肺炎を起こしやすくなり、急激に症状が進むことがあります。肺炎はわが国の死亡原因第5位^(※1)で、亡くなる方のほとんどが65歳以上です。今回は高齢者が注意したい肺炎とその予防についてご紹介します。(※1)2018年人口動態統計より

呼吸器内科 部長
中島 啓 医師

回答者

Q. 肺炎とは、どんな病気なの？

A. 肺の中に炎症が生じ、高熱や激しいせき、痰、呼吸が苦しいといった呼吸器の症状がでる病気です。

しかし高齢者の場合、このような症状が現れにくく、気づいた時には重症化していることがあります。また進行が早いのも特徴で、特に心臓や呼吸器に持病のある人、腎不全、肝機能障害、糖尿病などがある人は、肺炎にかかりやすく、症状も重くなる傾向があります。「いつもと様子が違う」「呼吸の回数がいつもより多い」などわずかな変化を見逃さず、早めに受診をしましょう。

なかでも高齢者に多いのが「誤嚥(ごえん)性肺炎」と呼ばれるものです。これは、本来食道を通じて胃に入るはずの食べ物の一部や、唾、痰などが誤って気管に入り込み、その結果、病原菌も一緒に肺に入ってしまうことで起ります。

Q. 肺炎は何によって引き起こされるの？

A. 肺炎は、細菌、ウイルス、真菌(カビ)など微生物が肺の内部で増殖して発症します。とりわけ、成人が日常的にかかる肺炎の原因菌として一番多いのが「肺炎球菌」です。

肺炎球菌は鼻や喉の奥にいる常在菌で、感染者のせきやくしゃみで飛散した飛沫を吸い込むことで人から人へと広がります。健康で体力がある状態であれば悪さはしません。が、免疫力低下や体調不良の時に肺炎や気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎、髄膜炎などの肺炎球菌感染症を引き起こします。

肺炎球菌が原因の肺炎は抗菌薬(抗生物質)などで治療しますが、重症化した場合は、抗菌薬で治療が難しいケースもあります。そのため、高齢者の肺炎はワクチン接種により予防すること、重症化を防ぐことが大切です。

Q. 肺炎を予防するにはどうしたらいいの？

A. 「肺炎球菌ワクチン」の接種が効果的です。ワクチンには、免疫効果の高い「13価肺炎球菌ワクチン」と肺炎球菌性肺炎の約60%に対して予防効果や重症化を防ぐ効果のある「23価肺炎球菌ワクチン」の2種類があります。後者は2014年から65歳以上を対象に定期接種化^(※2)されており公費補助があるため、まずは65歳になったら受けましょう。また、心臓や呼吸器に持病がある場合は、それより若くてもワクチン接種をおすすめします。年1回インフルエンザワクチンを併せて接種することも高齢者の肺炎予防に有効です。

そのほか、日頃から手洗いやうがい、咳エチケットを徹底し、規則正しい生活習慣や適度な運動を意識するとともに、禁煙や口の中を清潔に保つことも心がけましょう。

(※2)2023年度までは65歳から5年刻みの人が対象

亀田 本舗

『さいえんす川柳 「研究者あるある」傑作選』

川柳 in the ラボ：編
講談社／900円〔税別〕



来春の大学入試は「文低理高」の傾向が鮮明になるらしい。

好景気の時代は経済・経営学部を中心とする文系人気が高まり、不景気になる

と理系人気が高まるそうで、コロナ不況の到来が叫ばれる昨今、受験生らはなるべく専門性を身につけられる学部を狙おうと、理系人気が加速するだろうというのが予備校関係者らの見方だ。

就職戦線でも企業の「理系重用」の流れが起きている。金融や総合商社、運輸といった文系の牙城でも、近年は理系採用枠が拡大しているそう

で、研究者のための「あるある」川柳をまとめた1冊の本

が出版され、理系の人の間でひそかに話題だと聞き、読んでみた。川柳イベント「川柳 in the ラボ」に投稿された6815句の中から厳選された傑作170句が収録された『さいえんす川柳「研究者あるある」傑作選』である。文系のわたしが読んでクスツと笑え、なぞ多き研究室の日常の一端を知ることができ「へえ」とためになる。理系の方なら、「そうそう!」と共感するところも多いのではないだろうか。

ここから少し、収録されている句を紹介したい。



いかがだろうか。自分の予定よりも実験に用いるマウスやハエの都合を優先し、毎日献身的に世話をしている細胞に胸をときめかせ、誰もいない深夜のラボで実験の成功を一人噛み締める……。そんな実験をこよなく愛し、論文アクセプトのために奮闘するライフサイエンスの研究者たちの笑いと悲哀に満ちた日常が匂い立つような句ばかりだ。

この本を読んで気づいたのは、研究者たちのなんとも地味で地道な働きぶりである。失敗しても、結果が出なくても、辛抱強く日々実験に明け暮れる、その原動力は何なのだろうか。

今年も「川柳 in the ラボ2020」の人気投票が11月10日～11月26日で行われるそう。興味を持った方は、ぜひそちらもチェックしてみてください。そして、今日もどこかで生物とは何か、難病に苦しむ人を救いたいと強い信念をもって研究に励むすべての研究者たちに大きな拍手を!

(蝸牛庵)

世界のぞき窓



第30回 シュリンク！シュリンク！シュリンク！

かすていら
文明堂

秋である。室長がマイタケを「くしゃくしゃ」にして食べる季節がやってきた。ここで言う「くしゃくしゃ」とは室長がテレビで見たおいしい調理法とのもので、要は手でざっくりとちぎったマイタケをバターで炒めて食べる調理法である。そんな室長がブランドマイタケ1パック57円のうちラシを見て「おえ、こりゃ買わねばいいねえ」と舞い上がって喜んだのは言うまでもない。マイタケの名前の由来は、幻のきのこと言われていたマイタケを見た人が「やったー！」と舞い上がったこととされているが（※諸説あり）、現代まで引き継がれているのはすごいなあといそいそと帰宅する室長の背を見送った。

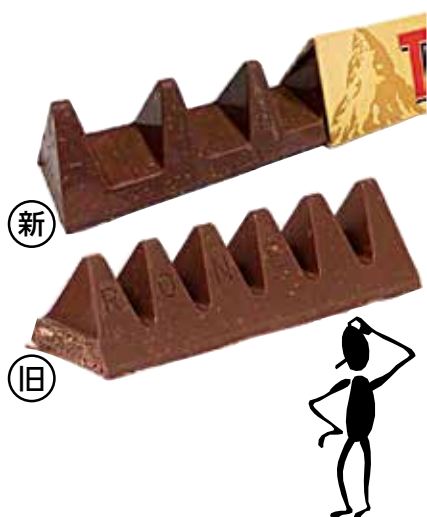
さておいしいマイタケを調理してさぞかし上機嫌であろう室長の肩間に三本の深い縦ジワができていたのは翌日のことである。なんでも売っていたマイタケが「あんまりにもちっちゃった」そうである。「うそっぽかされた…」としょんぼりしていた。

室長のみならず、何かを購入したとき「以前よりずいぶん小さくなってあるなあ」とガッカリしたことがある人は多いのではないだろうか。以前よりも格段に空気が多い気がするポテトチップス、ひとまわり小さくなったシャンプーの容器や、ずいぶん軽くなった野菜など、身近なものがかんたんに小さくなっている。

この現象は「シュリンクフレーション」と呼ばれており、商品の値段は変わらないうまま、商品のサイズや容量が縮小（シュリンク）する経済現象である。企業も原材料の値上げや激化する競合商品などで苦労している一方で、果たしてこれは公平なのか？という議論も持ち上がっている。

英国でも2016年にシュリンクフレーションに関する騒動が起きた。三角柱をつなげた人気チョコレートの「トブラローネ」が、ギザギザの間隙を大幅にひろげ、箱のサイズは変えないまま商品が小さくすると発表したのである。始めはその間の抜けた姿に失笑する人が多かったが、「生きてきた中でもっともひどい裏切りだ」「どうしてチョコレートが自転車スタンドになったんだ」「こんな残酷な仕打ちをするくらいならば値段を上げろ」などインターネットを中心に怒りが広がり、やがてはスコットランド議会をも巻き込む騒動となった。紅茶を捨てられたことをきっかけに戦争を起した過去のを持つ英国人に恐れをなしたかどうかは分からないが、結局翌年には商品は元の形に戻り、商品は値上がりしたのである。

シュリンクフレーションは家計にとっては負担ではあるが、一方で量が少なくなることでチョコレートなどのスナック菓子を大量に食べることが減ったなどという学者もいる。戦後からだんだん



ん大きいサイズとなっていたものが、徐々に元の大きさに戻っているというコメントもあれば、近年問題となっている食料廃棄問題についても、商品が小さくなればその分無駄も減るというようなどらえ方をしている人もいるようだ。また「量より質の時代になった」というようなコメントをしている学者もいる。

いずれにせよ、ほとんどのものには包装紙などに正確な量や重さが書かれている。ぼんやり買いたくかごに商品を詰め込むだけではなく、よくチェックしてから買うのもいいだろう。とりあえず今後底にちよつとしかかないポテトチップスを見たら「これがシュリンクフレーションか：企業も大変だな」とちよつと感じていただければ幸いである。

亀田総合病院報

No.258

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>

2020年11月1日発行（隔月発行） 発行責任者：亀田隆明 編集責任者：松元和子
発行：医療法人鉄蕉会 〒296-8602 千葉県鴨川市東町929 編集：広報企画室

当広報誌は個人情報保護のもと本人の了承を得て作成しており、本用途以外の転用は固くお断りしております。

All articles on this PR magazine has been printed under the permission of the subscriber to protect their personal information.

All editorial content and graphics may not be copied without the permission of Kameda Medical Center, Public Relations which reserves all rights.